

# 第25回企業セミナー

## 「子どもたちを守る」テーマに

### 藤田組

藤田組は7月26日、東京都千代田区のTRPガーデンシティ御茶ノ水で「第25回企業セミナー」を開催した。今回のテーマは、幼稚園や保育園、小学校の子どもたちが巻き込まれる事件や事故が多発していることを受け「子どもたちを守る」とした。セミナーでは、セコム・IS研究所リスクマネジメントグループ主務研究員の舟生岳夫氏が、「子どもたちに迫る様々な危機への対応方法」と題し講演。安全と安心の考え方や、最近の事件事案からみる対策について解説した他、現在の犯罪状況、連れ去りの手口と対策、不審者侵入対策について説明した。当日は、幼稚園や保育園などの教育関係者ら約20人が参加した。



藤田社長



舟生氏

藤田社長は今回のテーマについて説明し、子どもたちが巻き込まれる事件や事故が多発している現状について言及。同社の顧客の中にも、幼稚園や保育園、学校などの

関係者がいることから、舟生氏は、事件や事故に対する「不安」の解消には、①事故予防の施策「リスクコントロール」②危機回避の施策「クライシスマネジメント」③万一の時に金銭的に困ら

ないための対策「リスクファイナンス」の三つのリスクマネジメントが大事だと述べた。

次に、最近の子どもが巻き込まれた事件・事故を挙げ、その概要や発生原因について説明した他、問題点を指摘した上で、「その後、安全管理のあり方や警備の見直しが行われ始めた」と報告した。

現在の犯罪情勢については、国内の犯罪数は減少傾向で検挙率も向上しているとした。



多くの教育関係者らが参加した

小学生以下を対象とした連れ去り事件の発生件数が昨年は100件を超えたことを明らかにした。

連れ去り事件の傾向として、犯行目的が「身代金を要求」から「いたずら」や「監禁」「わいせつ」などに変化しているとした上で、「子どもであれば誰でもターゲットになってしまふ」と懸念を示した。

連れ去りの手口と対策については、主な手口の特徴として、①助けを求めぬふり②子どもの好きなもので誘う③緊急事態を示した。

## 地域で「安全」考える大切さ伝える

子どもを巻き込む事件は減少傾向とされた一方で、未就学児の犯罪被害は増加傾向で、虐待などの粗暴犯も増加していること、

を装う④大人の世に誘惑するの四つを挙げた上で、「声を掛けられても決してつかず、断ると教えることが大切だ。また、明るく大人が

全な環境をつくることだとし、「おかしなことや怖いことがあったら、必ず家族や先生に報告するように子どもたちと約束するなど、積極的に「ミ

ユニケーションを取る」とが重要だ」と述べた。不審者侵入を防ぐ対策は、不審者の目的はさまざまであり、多くの人がその判断は難しいとした上で、「容易に不審者が施設内に入ることのないようにする準備や対策が重要だ。万一侵入してきた場合の対応の仕方を確認しておく必要がある」とした。

また、不審者が危害を与える可能性が高い場合、子どもも大人もまずは安全確保が最優先であること、犯人を捕まえようとしてはいけないこと、逃げることもできるなら迷わず逃げる大切だとした。

最後に、緊急時の体制整備として、危機管理マニュアルの作成や、指示系統を明確にしておくこと、緊急体制整備やシミュレーションを実施することの他、防犯訓練のポイントとして、訓練の目的は問題の発見に注視することを伝えた。